

(令和5年度自己評価公表シート)

1. 本園の教育目標

「強く、正しく、美しく」を建学の精神とし、「基本的生活習慣を身につけ、たくましい心身と思いやりの心を育て、よく考えて行動できる子どもを育成する」を教育の目標として日々の保育に取り組む。

幼児期にふさわしい生活が送れるよう、異年齢交流や自然観察の機会を多く取り入れ、直接的な体験学習をし、伸び伸びと「自主・協力・創造」する力を培う保育を展開する幼児教育を目指している。

2. 本年度に重点的に取り組む目標や計画

自己点検・自己評価を行い、下記の点について重点的に取り組む

- 1、就学までに育てたい子どもの姿を明確にし、たてよこのつながりを大切に教職員間で共有する。
- 2、教師が客観的に保育を振り返り、保育に必要なスキルアップに努める。
- 3、魅力ある園づくりのための環境構成と情報発信を行う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
ア、たてわり活動の充実	登園後や降園前のたてわり活動や、年間のたてわり活動を通して、年長者としての意識が高まり、たてのつながりが深まった。今後も週の計画に活動日を入れ、継続して機会を増やせるように努める。
イ、幼児の理解と保育・教師のスキルアップ	外部の研修や園内研修を行い、スキルの習得にとどまらず実施できた。又、カウンセリングマインドや子どもの成長の理解、職員間での周知に努めた。
ウ、園の特色を活かした保育計画を編成し、実施にあたって職員間の共通理解を図る。	建学の精神や教育目標に基づいた教育課程を編成している。専門の講師によるあそびや、生活の中での作法、農園観察栽培などの自然活動や食育、体験活動を通して、社会ルールや考える力が発揮できる環境づくりに努めた。
エ、子どもの育ちについて日々話し合い、情報の共有し家庭との連携を深める。	ポートフォリオや個別の懇談などを通して、園での子どもの様子や育ちを保護者と話す機会を増やし、連携を取るように努めた。教職員間では、こまめに子どもの現状を共有し、小学校教育との連携をスムーズに行えるようにできた。

オ、安心安全な居場所づくり	日々の命を守る安全教育活動を行う一方、南海トラフなど災害が起きた時への対応の仕方など、全教職員・園児で命を守る訓練をしたり、保護者への啓発を行えた。
---------------	--

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>安全面に配慮する機会が多く意識が高まったことと、子ども理解が深まり、小学校教育への接続が十分に行えた。幼稚園での育ちや発達について研修を通して理解はしているが、異年齢保育やチーム保育でまだ、十分でない部分があるので、今後も継続し、内容や環境づくりの見直しに努めるようにする。</p>
--

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
チーム保育やメンター制度など、教職員間の協力的な体制を整える	先生間での参観等を行い、園児の情報共有し、よりよい保育の話し合いの機会を増やしたり、相談体制を整えたりして、教職員の協力体制を整える
園の魅力の伝え方・情報発信	園での様子や保育についての情報発信について、保護者への連絡や情報共有の仕方の見直したり、地域への幼稚園の魅力の、色々なツールを使っての発信方法を考える。
子育て支援の充実	親子教室や園庭開放の機会を増やしたり、対象年齢を広げより参加しやすい、交流しやすい環境づくりに努める。又、教諭としての専門性を活かし、保護者の悩みに寄り添い、相談にのったり関係機関とつなげる。
保護者・園児への寄り添いに対する学び	個々の発達に応じての関わり方や、保護者との関わり・寄り添いについて、カウンセリング研修等を通じ、対応の仕方を学ぶ

6. 学校関係者の評価

<p>課題としては、おおむね達成できているとの評価だった。 アフターコロナで行事が元に戻り、活動が増えて安全教育をはじめ、異年齢活動など、家庭では学べない専門教育を活発に行えている。教員のスキルアップについては、対外的に見えずらく、安心して子どもを預けられる環境が整っているのもっと発信してよいと思う。</p>

7. 財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。
